

第38回 渋谷健一奨励賞

本賞は、渋谷健一先生（元本学理事長）の本学創立百周年を記念した篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、本学に在学する学生のうち、学術、文化、体育等の活動を通じて、卓越した成果を収めた者（団体を含む）を対象に授与するものです。

【学術・文化の分野（個人）】

佐藤七美	法学部 2年	末川杯は、法律に関する問題を受け、それに対する論旨を発表した後、質疑応答を行い、それを踏まえた評価を競い合うものである。関西大学、関西学院大学、慶應義塾大学、中央大学、明治大学、立命館大学、早稲田大学の7大学が参加する強豪ぞろいの中で、2024年11月16日に開催された第73回末川杯争奪法律討論会の立論の部において第1位の獲得に至ったことから、本奨励賞への推薦に値する。
夏目丈	法学部 2年	全日本学生法律討論会は、法律に関する問題を受け、それに対する論旨を発表した後、質疑応答を行い、それを踏まえた評価を競い合うものである。関東、関西、九州・瀬戸内それぞれで2024年12月7日開催の第74回全日本学生法律討論会の立論の部にて久々に第1位の獲得に至ったことから、本奨励賞への推薦に値する。
長倉康太	経済学部 3年	乳製品の品質を向上し、同時にアニマルウェルフェアを実現するために放牧は有効な手段であるが、日本は放牧地が狭いため、放牧をした場合、十分に栄養をとれない。このため、牛舎に帰ってから追加の餌を食べさせるが、多すぎると体調を壊し、少なくともは搾乳量が減少する。そこで、放牧中採食量を正確に推定する必要がある。今回、Vision Transformerという最新のAI技術を応用することで、センサーを足首にとりつけた場合、90%以上の精度を得ることが可能であることを示し、放牧の促進に貢献する提案となった。この研究成果をまとめた論文「放牧中の牛の行動分類：センサー位置による比較」に対して、電子情報通信学会ネットワークソフトウェア研究会から「若手研究奨励賞」を受賞した。
赤石龍介	理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子情報通信工学専攻	次世代無線通信システムにおいては、電波の直進性が高く、多くの基地局の設置が必要となる。これを補うものとして、電波を反射し死角となる領域をカバーするIRS (Intelligent Reflecting Surface) が注目されている。赤石さんは、「集合被覆問題を用いたIRSの設置とその効果」と題した研究結果を発表し、日本シミュレーション学会年会(略称JSST2024)実行委員会より2024年9月20日にStudent Poster Presentation Awardを受賞した。
朝田陸斗	理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子情報通信工学専攻	朝田君が彼の修士論文の研究結果をまとめ、去る11月26日に電子情報通信学会電磁界理論研究会で発表した学術論文「薄膜FSSシートを用いた5 GHz帯Wi-Fi電波の遮断について」が、同研究会の学生優秀論文発表賞にノミネートされ投票の結果、見事に同賞を受賞した。2024年度の本賞は、3名の学生に贈られ、本学の名声を大いに高めた。
飯野匠	理工学研究科 博士課程前期課程 情報工学専攻	2023年12月HCGシンポジウム2023にて「学生優秀インタラクティブ発表賞」を受賞 現在使われている心理学の表情空間は表情のきめ細やかな解析ができないが、彼はGANを利用した表情モーフィング画像の生成により表情画像生成の難題を克服して、また表情弁別閾値を測定することで表情の心理物理空間を構築した。この貢献は高く評価、期待されている。
石原汰公	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	石原君は、大学院に進学して以来、半導体製造の主要プロセスであるCMPプロセスのデジタルツイン技術の研究に取り組んできた。新しいダイレベルCMPモデルを考案し、ウェハ表面のナノ構造の形状変化をモデルベースで推定する新しい計算モデルの開発とその実験実証に取り組んできた。その研究成果「Development of a process model of micro-nano patterns toward a novel model-based process control in chemical mechanical polishing」を国際会議The 26th International Symposium on Advances in Abrasive Technology (ISAAT2024)にて発表し、Excellent paper awardとして高い評価を得た。
大島遙汰	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	自動車技術会 2024年春季大会 第7回学生ポスターセッション「機械学習によるエンジン音の特徴量抽出手法の提案」が優秀賞を受賞した。また、自動車技術会論文集に、55巻6号掲載の「機械学習による時間変動を伴うエンジン音の特徴量抽出」をはじめ2件の論文が採録された。さらに、自動車技術会 2024年度大学院研究奨励賞を受賞するなど研究成果が高く評価された。従って、貴奨励学生にふさわしい大島遙汰君を強く推薦する。
小田原遼河	理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子情報通信工学専攻	小田原遼河君は、長波長域が対象の光センサ集積設計や、電磁波計測とAR技術を融合させる新たな非破壊検査手法の創出に関する研究に従事しています。同君が主導的に確立した「長波長光イメージャの2次元集積設計と拡張現実型非破壊検査システム」は高く評価されており、2024年8月にフィンランド・クオピオで開催された9th International Workshop on Nanocarbon Photonics and OptoelectronicsでThe Best Young Scientist Poster Presentation Awardを受賞しています。故に今年度の渋谷健一奨励学生候補者として強く推薦します。
河奈裕太郎	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	河奈君は、大学院に進学して以来、切削中に低周波揺動運動を重畳しながら切削する従来にないユニークなミリング法の研究に取り組んできた。基本原理をゼロから考案し、その実用性を解析・実験の両面から明らかにしてきた。三菱電機、オレゴン州立大学との共同プロジェクトとして、加工面の劣化を生じずにびびり安定性を飛躍的に向上する革新的な性能を実証し、発明者の一人として同手法の特許出願を行った。研究成果「Development of Simulation Technique for Milling Process Superimposing Oscillation on the Feed Motion」を国際会議The 20th International Conference on Precision Engineering (ICPE2024)にて発表し、Outstanding paper awardとして高い評価を得た。
久保田実樹	理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子情報通信工学専攻	久保田実樹君は、2024年度日本写真学会年次大会において研究発表を行い、学生優秀ポスター発表賞を受賞した。電磁波計測に基づく医薬品のインライン検査手法の創出に関する研究に従事しており、「目視では困難な成分識別・異物検出を可能にする手法」は、独創性の高さが評価されている。また、共著者としてIF10以上の査読付き国際英文論文誌掲載や専門書籍への分担執筆に貢献している。故に渋谷健一奨励学生候補者として推薦する。
小林晃大	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	フランス・パリで開催された査読付き国際会議The 16th International Conference on Human System Interaction (HSI 2024)において筆頭著者として論文発表を行い、「Second Best paper presentation for Track 2」を受賞した。同論文では、深部静脈血栓症予防のための新たな装置を提案しており、その優れた発表が評価された。その他にも国内発表2件、国際発表1件を行っている。

鹿倉 瑠斗	理工学研究科 博士課程前期課程 都市人間環境学専攻	卒業研究において、鋼矢板を用いた構造物基礎の耐震補強工法に関する緻密な模型実験を実施し、その補強効果を高精度に評価するとともに、その成果発表に積極的に取り組んでいる。国内学会（第59回地盤工学研究発表会）で優秀論文発表者賞を受賞したほか、国際会議（The Third International Conference on Press-in Engineering 2024）でも筆頭著者として論文発表を行い、Best Research Paper Awardを受賞した。特に後者の修士1年時点での受賞は最年少であり、極めて顕著な功績といえる。
清水 大雅	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	イギリスのブリストルで33カ国256名が参加したThe 25th IEEE International Conference on Industrial Technology (ICIT2024)において、下肢力覚提示装置によるVR空間でのボールの重量感覚提示に関する研究の発表を行った。10人程度の賞候補者が選出されて発表を行い、論文及び講演が評価されてBest Student Paper Prizeを受賞した。
杉野 智孝	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	2024年7月8日～11日にフランス・パリで開催された査読付き国際会議International Conference on Human System Interaction (HSI 2024)においてIMUを用いた外骨格装置による膝関節アシストに関する成果を筆頭著者として発表した。これについて発表が優秀と評価されたため、“Second Best paper presentation for Track 6”を受賞した。その他、査読付き国際学会発表（BioRob2024、筆頭著者）と、国際ジャーナル掲載（IEEE Access、責任著者）の研究業績が評価された。
高木 蒼生	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	研究成果は修士課程在籍中に査読付き学術論文3編、国際会議5件（内3件が査読付きプロシーディング）、国内学会発表6件と広く国内外へ公表している。その成果は学協会から認められ、日本非破壊検査協会主催の2023年度秋季講演大会では新進賞を、日本機械学会主催の関東支部第30期講演会では若手優秀講演フェロー賞をそれぞれ受賞した。さらにTSME主催の国際会議TSME ICoME2024における口頭発表の研究内容が評価され社会人研究者も含む候補者の中からApplied mechanics, Material, Manufacturing (AMM)部門におけるBest Paper Awardを受賞した。
武田 侑佳	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	本学生は、積極的に研究に取り組み、研究成果を学会等で発表することに励んでいる。2024年11月23日、The 21st IEEE Transdisciplinary-Oriented Workshop for Emerging Researchers(TOWERS)では、北極海氷下探査のための蠕動運動型掘削ロボットの空気圧駆動型推進機構の開発とその特性評価に関する研究成果を発表した。これについて、全68件の発表の中で、 Outstanding Poster Presentation Awardを受賞した。以上より渋谷健一奨励賞に値すると考え、推薦する。
中島 美結	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	中島さんは長年未解明であった海洋天然物の構造を、NMR分光法、計算化学及び合成化学を統合した手法により世界に先駆けて決定するとともに、全合成を達成した。本研究成果は、公益社団法人有機合成化学協会主催の第125回有機合成シンポジウムにて口頭およびポスター発表で報告し、優秀発表賞（62件中5件）として表彰された。以上、中島さんは学術・文化の分野において卓越した成果を収めたので推薦する。
馬鳥 沙希	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	第73回高分子学会年次大会において発表した「リボソームを輸送できる高分子チューブマイクロモーターの合成と薬物放出」が優秀ポスター賞を受賞した。また、Cutting-edge Nanotechnologies for Good Health and Well-being 国際会議 (Bangkok, Thailand) において発表した「Velocity Control of Polymer-Based Tubular Micromotors by Visible Light Irradiation」が Poster Presentation Award を受賞した。いずれの学会においても、馬鳥さんの発表はきわめて卓越した成果として高い評価を受けている。馬鳥さんは、明朗快活、協調性と積極性を兼ね備え、自らの視点で研究を推進できる優秀な学生である。
藤田 真悠花	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	Cutting-edge Nanotechnologies for Good Health and Well-being 国際会議 (Bangkok, Thailand) において発表した「Surface Decoration of Red Blood Cells with Polyoxazoline to Mask RhD Antigens」が Poster Presentation Award を受賞した。また、第31回日本血液代替物学会年次大会において発表した「ユニバーサル赤血球としての高分子結合赤血球の開発」が優秀講演賞を受賞した。いずれの学会においても、藤田さんの発表はきわめて卓越した成果として高い評価を受けている。藤田さんは、明朗快活、協調性と積極性を兼ね備え、自らの視点で研究を推進できる優秀な学生である。
眞崎 二千海	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	眞崎君は、大学院に進学して以来、切削中の加工音から切削現象をモニタリングする研究に取り組んできた。加工音計測システムや切削現象と音の物理量に関するモデルを開発し、加工音から加工面形状の推定が可能であることなどを実験検証を通じて明らかにしてきた。国際会議The 20th International Machine Tool Engineer's Conference(IMEC2024)にて、研究成果「Non-contact monitoring of cutting pressure using machining sound measurement」のポスター発表を行い、Excellent Poster Awardとして高い評価を得た。
門間 洋介	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	ロボティクス・メカトロニクス講演会2023において発表した「複合型遊星歯車機構を用いた角型の厨房ダクト内清掃装置の開発」は人が侵入できず清掃が難しい小径の角型ダクト内の油汚れを除去可能な点が優れている。開発した装置を実際に動かしながら行った発表が評価され、1467件の発表の中からベストデモンストレーション表彰を受賞した。さらに論文および発表が評価され、887件の26歳未満の会員による発表の中から若手優秀講演フェロー賞を受賞した。
山本 裕希	理工学研究科 博士課程前期課程 都市人間環境学専攻	イギリスで開催されたfNIRS2024において、筆頭著者として「Adjusted Meff for family-wise error rate in fNIRS data with a small sample size」を発表し、Poster Awardを受賞した。本研究では、fNIRSの多重比較補正法であるMeff法における、小サンプルサイズでの課題を解決する手法を提案し、その有効性を実データで実証した。また同テーマに関する論文は査読付き国際学術誌であるNeurophotonics誌（2024 IF=4.8, JCR Q1:optics）に採択された。
吉岡 優人	理工学研究科 博士課程前期課程 ビジネスデータサイエンス専攻	吉岡君は2024年11月16日に開催された経営情報学会2024年全国研究発表大会において「グラフ畳み込みネットワークと対照学習による状況依存型料理レシピ推薦システムの構築」を発表し、学生優秀発表賞を受賞した。本研究では、データサイエンス技術を用いて個人のニーズや状況に合わせた料理レシピ推薦のための方法論を提案し、また実験によってその有効性を確かめている。本研究は研究の先駆性とデータサイエンスの有望な応用研究として、経営情報学会の学生優秀発表賞（3件受賞のうちの1件）を受賞した。
林 隆羽	法学部 通信教育課程	学生囲碁界における個人戦の全国大会は4つあり、林隆羽さんはそのうち2大会で優勝し、快挙となる2冠を達成した。また、2025年2月に開催される第23回世界学生囲碁王座戦への出場権を獲得していることから、今後の活躍も期待される。この成果は、朝日新聞（2024年11月18日・25日）や日本経済新聞（2024年12月15日）にも掲載され、社会において高く評価されており、本奨励賞への推薦に値する。

【学術・文化の分野（団体）】	
電気工学研究部 日向野 孝幸（他7名）	日本アマチュア無線連盟主催「第67回フィールドデーコンテスト」 電話マルチオポオールバンド部門 第1位優勝 No.5ハムクラブ主催「第54回大都市コンテスト」 社団マルチバンド部門 第1位優勝

【体育の分野（個人）】	
井出 晃太郎	法学部 3年 第64回全日本学生選手権 トラック自転車競技大会 男子スプリント 優勝 第79回全日本大学対抗選手権 自転車競技大会 男子スプリント 優勝、男子ケイリン 優勝
伊藤 恭	法学部 4年 第9回全日本学生選手権 個人タイムトライアル自転車競技大会 男子の部 優勝 第64回全日本学生選手権 トラック自転車競技大会 男子4km インディヴィデュアル・パーシュート 優勝
日向 楓	理工学部 1年 パリパラリンピック2024出場 50M 背泳ぎ 7位入賞 50M バタフライ 8位入賞

【体育の分野（団体）】	
スケート部	第97回日本学生氷上競技選手権（アイスホッケー競技）優勝 第25回大学アイスホッケー交流戦苫小牧大会 ファーストステージ 優勝（3連覇）
軟式野球部	第47回全日本学生軟式野球選手権大会 優勝（2連覇）

第32回 三重野康・高木友之助記念学術奨励賞

本賞は、三重野康元日本銀行総裁及び高木友之助元総長の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、学部学生のうち、経済、金融、政策等の諸科学の分野で、卓越した成果を取めた者に授与するものです。

奥田 漢太	経済学部 4年	論文タイトル：局所非飽和性を用いた選好順序の表現 推薦理由： 本論文は古典的な順序の効用表現可能性について、Debreu(1954)の示した存在定理の条件のうち、「空間の連結性」という技術的条件を「順序の局所非飽和性」という経済学的に自然な仮定に置き換えて、同様の存在定理を証明したものである。本稿の結果は新しく、また近年の査読付き英文誌に掲載された研究と比較しても遜色がないものである。よって、推薦者は本稿を三重野・高木学術奨励賞の受賞論文として推薦する。
斉藤 秀斗	商学部 4年	論文タイトル： 交通系モバイル ICカードの利用を躊躇する要因の解明—モバイル端末で購入からポイント付与までをシームレスに— 推薦理由： 本論文は、ある決済サービスプラットフォームを事例に、その決済利用を躊躇する要因構造の把握と改善に向けた介入方法を提起したものであり、第25回商学部演習論文大会にて高い評価を得て、学部長賞（商業・貿易部門）を受賞している。先行の学術研究の課題を丁寧に踏まえた研究課題設定、要因構造の実証分析に加え、介入効果の検証の実験も行っている。理論的貢献が大きいうえに、実務にも応用可能な示唆に富んだ点で優れており、学部生として卓越した学術研究成果と評価できる。
北原 孝太郎 城川 航樹 高森 橋友 森 友希	総合政策学部 3年	論文タイトル： 地域活性化のための政策提言—消滅可能性自治体の脱却要因を探る— 推薦理由： 本論文では、20代・30代の女性比率が低く消滅可能性が示唆される自治体を対象とし、「行政努力のうちのどのような取組や社会環境がその脱却の手掛かりとなるのか」を定量的に明らかにしたうえで、具体的な政策提言までを行っており、学術的・実務的な貢献が認められる。 その証左として、学部生が発表可能な全国規模の学術大会である「WEST論文研究発表会」（後援：大阪府、京都府、関西広域連合）において、査読の結果、報告された全65篇の論文の中で上位5篇の論文に選ばれ、「優秀論文賞」を受賞した。この結果は教育・研究機関としての中央大学の名声を大いに高めたといえ、「経済、金融、政策等の分野において卓越した成果を取めた」と十分に認めることができる。本奨励賞の候補者として強く推薦する。

第30回 船木勝馬学術奨励賞

本賞は、船木勝馬氏の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、アジア諸国・地域からの留学生を対象とし、卒業論文、修士論文又は研究論文が、優秀と認められた者に授与するものです。

宋 健	法学研究科 博士課程後期課程 刑事法専攻	論文タイトル： 「臓器移植をめぐる自己決定権に関する考察」 （「大学院研究年報」第54号（文系）2025年2月発行予定） 推薦理由： 宋健氏は、生命倫理と法の問題及び医事刑法に関して着実な研究を重ね、上記論文では、日本、中国、ドイツの3か国における臓器移植にかかる現状と法制度の精査をもとに、比較法的見地からの検証がなされています。臓器移植という高度先進医療行為の場面にあって、提供者の自由かつ自発的な意思の表明とその確認は施術の大前提となっているところ、とはいえ、自己決定権という考え方についての社会的な合意形成はまだまだ途上にあり、法の態度、法的なバックアップは国や社会によって様々です。本論文は、日中独における各学説や議論の状況、判例群についての把握と精緻な検討を基礎に、同問題をめぐる論点を整理して今後の方向性に関する試論の提供を試みるものであり、ひいては、故国中国の今後の立法等への貢献も視野に入れた研究成果として、生命倫理にかかる課題の総合的研究の発展に寄与するものと考えます。 したがって、船木勝馬学術奨励賞の候補者に相応しい人物として宋健氏を推薦する次第です。
-----	----------------------------	---

第30回 水野富久司スポーツ奨励賞

本賞は、水野富久司氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として陸上競技部選手の育成に資することを目的として、陸上競技部に所属する学生のうち、長距離選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

本間 颯	経済学部 2年 (陸上競技部)	第101回東京箱根間往復大学駅伝競走大会第3区 区間賞 (1時間0分16秒) この記録は第3区歴代4位の記録で素晴らしい結果である。 今後も長距離種目での活躍が大きく期待される。
------	--------------------	---

第28回 瀧野秀雄学術奨励賞

本賞は、瀧野秀雄氏の篤志を尊重し、少壮気鋭の研究者の研究活動を奨励することを目的として、本学准教授、助教若しくは専任講師又は大学院に在籍する学生であって、産業や技術開発の国際化にともなう知的財産権に関する研究論文が優秀と認められた者に授与するものです。

大熊 琉 聖	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	論文タイトル： Development of a Robot Combining a Hyper-Extension Unit and an Earthworm-Type Robot Enhancing Propulsion and Traction 推薦理由： 上記論文がロボティクス・メカトロニクスに関する有名英文論文誌「Journal of Robotics and Mechatronics」に掲載され高い評価を得ている。特願2024-086610「管内移動ロボットの管内移動性能を向上する押し込み引き込み機構」を特許出願している。4件の国際会議の筆頭著者執筆・発表に加え、国内学会では8件発表し、講演賞を1件受賞している。以上より瀧野秀雄学術奨励賞に推薦する。
丹野 喬 瑛	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	論文タイトル： 半径方向への独立変形可能な閉塞機構をもつ蠕動運動型混合搬送装置の開発 推薦理由： 論文「半径方向への独立変形可能な閉塞機構をもつ蠕動運動型混合搬送装置の開発」は提案機構の新規性が評価され、ロボティクス分野の学術誌「日本ロボット学会誌」への採録が決定した。また、本論文に関して特願2024-150791「蠕動運動ポンプの混合能力を向上するゴムチューブ独立変形機構」を特許出願している。2件の国際会議の筆頭著者執筆に加えて国内学会では2件発表し、新規性・学際性に富んだ優れた研究成果を挙げていることから瀧野秀雄学術奨励賞に推薦する。
廣本 果 南	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	論文タイトル： Multiple-connected Variable Outer Diameter PIGs using pneumatic artificial muscle for inspecting narrow and complex pipeline, including many bend pipes 推薦理由： 論文「Multiple-connected Variable Outer Diameter PIGs using pneumatic artificial muscle for inspecting narrow and complex pipeline, including many bend pipes」は提案機構が評価され、国際的な論文誌「IEEE Robotics and Automation Letters(RA-L)」の掲載が決定している。また、本論文の内容に関して、特願2025- 2491「管内移動ロボット」として特許出願している。また、1件の国際会議の筆頭著者執筆に加えて、国内学会では4件発表しており、新規性・学際性に富んだ優れた研究成果を挙げていることから瀧野秀雄学術奨励賞に推薦する。

第28回 茨木龍雄学術奨励賞

本賞は、茨木龍雄氏の篤志を尊重し、都市環境学の分野における有為な人材の育成に資することを目的として、理工学部都市環境学科及び大学院理学研究科都市環境学専攻に在籍をする学生であって、都市環境学に関する研究及び人物がともに優秀と認められた者に授与するものです。

坂部 雅 弥	理工学部 4年	論文タイトル： 修正DEMを用いたタイ首都圏における水害ハザード算出手法の提案と寺院の水害リスク評価 推薦理由： 坂部雅弥さんは、成績優秀者向け給付型奨学金を取得し、国家公務員総合職試験（大卒程度試験）に合格するなど、学業成績のみならずその努力と成果が高く評価されています。 卒業研究の一部を発表した一般社団法人水文・水資源学会主催の水文・水資源学会2024年度研究発表会ではポスター賞を受賞し、学術面、プレゼンテーション能力に対して高い評価を得ました。 以上のことから、坂部雅弥さんは他の学生の模範であり、茨木龍雄学術奨励賞の候補者として推薦します。
中祖 諒 大	理工学研究科 博士課程前期課程 都市人間環境学専攻	論文タイトル： マーカーベースとロケーションベースのハイブリッド手法を用いたMR可視化システムの構築 推薦理由： 中祖諒大さんは、成績優秀で学部時代には給付型奨学金を取得していました。学部・大学院を通じて研究を粘り強く行い、毎年海外での土木情報科学に関する国際会議（ICCBIE2023、CONVR2024）に発表するなど研究成果をあげ、既に土木学会論文集にも筆頭著者として投稿し掲載済みとなっています。また、研究室では技術員代替を担っており、研究室学生からの信頼も厚い学生です。 以上のことから、中祖諒大さんは他の学生の模範であり、茨木龍雄学術奨励賞の候補者として推薦します。

第28回 久保田昭夫・久保田紀昭女子スポーツ奨励賞

本賞は、久保田昭夫氏及び久保田紀昭氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として女子選手の育成に資することを目的として、学友会体育連盟の部会に所属する女子学生であって、選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

池本 凪 沙	法学部 4年 (水泳部)	パリオリンピック2024出場 女子4×200Mフリーリレー 第100回日本学生選手権水泳競技大会 女子100M自由形優勝(2連覇)、女子200M自由形優勝(3連覇) 今後も日本の競泳界での活躍が大きく期待される。
枝 廣 愛	商学部 3年 (女子卓球部)	第20回全日本学生選抜卓球選手権大会 女子シングルス 優勝 第90回全日本大学総合卓球選手権大会 女子シングルス ベスト4 今後も日本の卓球界での活躍が大きく期待される。

第71回 学員体育会賞

本賞は、体育の業績において優秀な成績を挙げた本学の学生、団体に対し授与するものです。

【特別優秀団体賞】

軟式野球部		第47回全日本学生軟式野球選手権大会 優勝(2年連続5回目)四冠達成 令和6年度東都学生軟式野球連盟春季リーグ戦 優勝(3年ぶり8回目) 令和6年度東都学生軟式野球連盟秋季リーグ戦 優勝(2年ぶり11回目) 第45回東日本学生軟式野球選抜大会 優勝(2年ぶり5回目)
-------	--	--

【優秀団体賞】

ハンドボール部		高松宮記念杯第67回令和6年度全日本学生ハンドボール選手権大会 優勝(4年連続7回目) 2024年度関東学生ハンドボール連盟秋季リーグ戦 優勝(3季ぶり19回目)
準硬式野球部		文部科学大臣杯 第76回全日本大学準硬式野球選手権大会 優勝(8年ぶり13回目) 令和6年度 東都大学準硬式野球春季リーグ戦 優勝(9季連続71回目) 第66回関東地区準硬式野球選手権大会 優勝(2年ぶり16回目)
スケート部		第97回日本学生氷上競技選手権大会 アイスホッケー競技 優勝(9年ぶり4回目)

【優秀団体部門賞】

自動車部		2024年度全日本学生自動車運転競技選手権大会 女子団体優勝 2024年度全日本学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 女子団体優勝 2024年度全関東学生自動車運転競技選手権大会 女子団体優勝 2024年度全関東学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 女子団体優勝 第27回関東学生対抗軽自動車6時間耐久レース 優勝
------	--	---

【努力団体賞】

バレーボール部		第43回東日本バレーボール大学選手権大会 優勝 2024年度春季関東大学バレーボールリーグ戦 優勝
剣道部		第50回関東女子学生剣道優勝大会 優勝
射撃部		第26回日本学生選抜スポーツ射撃競技大会 男子総合団体 優勝

【努力団体部門賞】

馬術部		第59回関東学生賞典障害馬術競技大会 団体優勝
フェンシング部		第74回全日本学生王座決定戦 男子フルーレ 団体優勝 第76回関東学生フェンシング選手権大会 男子フルーレ 団体優勝
自転車競技部		第62回全日本学生選手権チーム・ロード・タイムトライアル大会 優勝 伊藤 恭(法4)山下 虎ノ亮(法3)三宅 太生(法2)大室 佑(法2)

【リレー賞】

水泳部		第100回日本学生選手権水泳競技大会 女子4×100mリレー優勝(2連覇) 池本 風沙(法4)今野 凛々香(文4)長谷川 葉月(文2)澤野 莉子(文2)
女子陸上競技部		第103回関東学生陸上競技対校選手権大会 4×400mリレー優勝 益子 芽里(文3)松岡 萌絵(経4)吉永 葉月(文2)飯田 景子(法4)
自転車競技部		第79回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子チームパシュート優勝 伊藤 恭(法4)山下 虎ノ亮(法3)釜田 佳典(法3)三宅 太生(法2)

【優秀選手賞】

吉 居 駿 恭	法学部3年 (陸上競技部)	第101回東京箱根間往復大学駅伝競走 1区 区間賞
池 本 風 沙	法学部4年 (水泳部)	第100回日本学生選手権水泳競技大会 100m自由形優勝 200m自由形優勝 第33回オリンピック競技大会(2024/パリ) 女子4×100mリレー13位
日 向 楓	理工学部1年 (水泳部)	第17回パラリンピック競技大会(2024/パリ) 男子50m背泳ぎ(S5)7位
川 端 響 喜	商学部1年 (ボクシング部)	第94回全日本ボクシング選手権大会 ミドル級優勝
中 島 鉄 人	商学部4年 (ボクシング部)	第94回全日本ボクシング選手権大会 ライトヘビー級優勝
種 市 悠 人	総合政策学部4年 (スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー男子 7位 第97回日本学生氷上競技選手権大会 アイスホッケー競技 最優秀選手賞
川 合 温 大	文学部3年 (スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー男子 7位
高 崎 泰 成	総合政策学部2年 (スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー男子 7位
堤 虎 太 朗	総合政策学部4年 (スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー男子 7位 第9回アジア冬季競技大会 アイスホッケー男子 2位

角丸陸斗	国際経営学部3年	(スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー男子 7位
長岡真鈴	文学部4年	(スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー女子 3位
馬場俊輔	法学部4年	(フェンシング部)	フェンシングワールドカップ(フランス/パリ) 男子フルール日本チーム 2位
中澤拓哉	経済学部3年	(スキー部)	第103回全日本スキー選手権大会コンパインド競技優勝 第98回全日本学生スキー選手権大会 ノルディックコンパインド10kmフリー 優勝
牧温人	法学部3年	(軟式野球部)	第47回全日本学生軟式野球選手権大会 最高殊勲選手賞 令和6年度東都学生軟式野球連盟春季リーグ戦 最高殊勲選手賞 令和6年度東都学生軟式野球連盟秋季リーグ戦 最高殊勲選手賞

【体育賞】

本間颯	経済学部2年	(陸上競技部)	第101回東京箱根間往復大学駅伝競走 3区 区間賞
田邊奨	商学部1年	(陸上競技部)	第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子400m優勝
野村飛美樹	国際経営学部3年	(自動車部)	2024年度全日本学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 男子個人の部優勝
古川佳愛	法学部3年	(自動車部)	2024年度全日本学生自動車運転競技選手権大会 女子小型貨物の部 優勝 2024年度全関東学生自動車運転競技選手権大会 女子小型貨物個人の部 優勝 2024年度全関東学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 女子個人の部 優勝
武内結	法学部3年	(自動車部)	2024年度全日本学生自動車運転競技選手権大会 女子小型乗用個人の部 優勝
戸谷棕	法学部3年	(スキー部)	第98回全日本学生スキー選手権大会 男子スラローム 優勝
松下美咲	文学部4年	(女子陸上競技部)	第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子七種競技優勝
井出晃太郎	法学部3年	(自転車競技部)	第79回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子スプリント優勝 男子ケイリン優勝 第64回全日本学生選手権トラック大会 男子スプリント優勝
金子莉駆	文学部4年	(射撃部)	2024年度全日本学生スポーツ射撃選手権大会 10mエアライフル60発競技男子優勝

【努力賞】

楠田夢乃	文学部1年	(水泳部)	ジャパンオープン2024 女子200m平泳ぎ優勝
石原三四郎	文学部4年	(レスリング部)	2024年全日本大学グレコローマン選手権大会 72kg級 優勝
柿崎晃	商学部4年	(バレーボール部)	第43回東日本バレーボール大学選手権大会 最優秀選手賞 2024年度春季関東大学バレーボールリーグ戦 最優秀選手賞
功刀史也	文学部4年	(準硬式野球部)	令和6年度 東都大学準硬式野球春季リーグ戦 最優秀選手賞
小林隆典	国際経営学部4年	(自動車部)	2024年度全関東学生自動車運転競技選手権大会 男子小型貨物個人の部 優勝
弓長昇主	法学部2年	(フェンシング部)	第76回関東学生フェンシング選手権大会 男子エペ個人優勝
大和田寛喜	理工学部4年	(弓道部)	第55回全日本学生弓道遠の選手権大会 優勝
保坂花	商学部3年	(スキー部)	第40回全日本学生アルペンチャンピオン大会 女子スラローム優勝
木下紗那	商学部3年	(女子陸上競技部)	第30回関東大学女子駅伝対校選手権大会 1区 区間新記録 2024日本学生陸上競技個人選手権大会 女子1500m 優勝
松岡萌絵	経済学部4年	(女子陸上競技部)	第103回関東学生陸上競技対校選手権大会 女子400mH 優勝
伊藤恭	法学部4年	(自転車競技部)	第64回全日本学生選手権トラック大会 男子マディソン優勝 男子4kmインディヴィデュアルパシュート優勝
山下虎ノ亮	法学部3年	(自転車競技部)	第64回全日本学生選手権トラック大会 男子マディソン優勝
吉田陸矢	経済学部3年	(射撃部)	第26回日本学生選抜スポーツ射撃競技大会 10mエアライフル60発競技男子優勝
枝廣愛	商学部3年	(女子卓球部)	第20回全日本学生選抜卓球選手権大会 女子シングルス優勝
若松虎太郎	文学部1年	(軟式野球部)	第45回東日本学生軟式野球選抜大会 最高殊勲選手賞
鈴木駿介	経済学部4年	(洋弓部)	関東学生アーチェリーターゲット個人選手権大会 優勝
武藤陸	理工学部4年	(少林寺拳法部)	第61回少林寺拳法関東学生大会 立会評価法男子重量級 1位

【特別賞】

芦沢太陽	文学部3年	(山岳部)	日本山岳会学生部ペンギン遠征隊 初登頂
------	-------	-------	---------------------

【学長賞】

吉居駿恭	法学部3年	(陸上競技部)	第101回東京箱根間往復大学駅伝競走 1区 区間賞
池本凧沙	法学部4年	(水泳部)	第100回日本学生選手権水泳競技大会 100m自由形優勝 200m自由形優勝 第33回オリンピック競技大会(2024/パリ) 女子4×100mリレー13位
日向楓	理工学部1年	(水泳部)	第17回パラリンピック競技大会(2024/パリ) 男子50m背泳ぎ(S5)7位
川端響喜	商学部1年	(ボクシング部)	第94回全日本ボクシング選手権大会 ミドル級優勝

中 島 鉄 人	商学部4年 (ボクシング部)	第94回全日本ボクシング選手権大会 ライトヘビー級優勝
種 市 悠 人	総合政策学部4年 (スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー男子 7位 第97回日本学生氷上競技選手権大会 アイスホッケー競技 最優秀選手賞
川 合 温 大	文学部3年 (スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー男子 7位
高 崎 泰 成	総合政策学部2年 (スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー男子 7位
堤 虎 太 朗	総合政策学部4年 (スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー男子 7位
		第9回アジア冬季競技大会 アイスホッケー男子 出場
角 丸 陸 斗	国際経営学部3年 (スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー男子 7位
長 岡 真 鈴	文学部4年 (スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー女子 3位
馬 場 俊 輔	法学部4年 (フェンシング部)	フェンシングワールドカップ(フランス/パリ) 男子フルーレ日本チーム 2位
中 澤 拓 哉	経済学部3年 (スキー部)	第103回全日本スキー選手権大会コンバインド競技優勝
		第98回全日本学生スキー選手権大会 ノルディックコンバインド10kmフリー 優勝
牧 温 人	法学部3年 (軟式野球部)	第47回全日本学生軟式野球選手権大会 最高殊勲選手賞
		令和6年度東都学生軟式野球連盟春季リーグ戦 最高殊勲選手賞
		令和6年度東都学生軟式野球連盟秋季リーグ戦 最高殊勲選手賞

第42回 学員会会長賞

本賞は、在学生の士気の高揚を図り、本学の発展に寄与することを目的として、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて特に優秀な成果を収めた者に授与するものです。

【学術・文化・社会の分野】

櫻 井 和	法学部 3年	櫻井さんは「混沌とする国際社会で、今こそ求められる『日本の強み』—「平和国家日本としてのイメージ」—という題目で論文を執筆した。海外を含め54編(年代別では、10～20代の応募が全体の半数、次いで会社員、団体職員等)の応募があったと聞く。また審査過程は国際局次長による第一次審査、有識者による第二次審査を経て、最終審査が実施されたとのことである。評価としては、「平和国家日本の対外イメージに焦点を当ててリベラリズムに貫かれた論旨には説得力がある。」とされ、最優秀賞を受賞したことから、本賞の受賞に相応しい候補者として推薦したい。
赤 羽 根 悠 悟	理工学部 4年	被推薦人は、学業、研究活動、ゼミ運営において一貫して優れた成果を収めている。3年間の通年GPAは3.75と学科トップであり、学部時代の授業内発表でも優れた評価を受け、学業面での努力と成果が顕著である。4年次には研究室の副ゼミ長として、ゼミ運営やメンバー間の調整を積極的に吸収すると同時に、周囲から信頼を得ている。あわせて、スタートアップベンチャーでインターンを行い、SQLやスプレッドシートを用いてデータの管理や、売上やユーザー数の予測などを行った。以上の理由から、被推薦人は学業および研究面において他の模範となる存在であり、中央大学学員会会長賞にふさわしい人物であると確信する。
高 橋 彩 乃	理工学部 3年	ミス日本では、外見だけではなく内面や行動の美しさも含めた総合的な視野に立ち、審査を行うとされる。高橋彩乃さんがこのミス日本2025のファイナリストとして選出された背景には、彼女が本学理工学部生命科学科の3年生として、関心を持つ微生物生態学や環境浄化の専門的知識を積極的に吸収すると同時に、幅広い分野での教養を深め、自己研鑽を重ねてきたことがあり、そうした努力が評価されたものと考えられる。自らを高め、将来は日本を牽引する立場で活躍したいと目指す真摯な姿勢は、学員会会長奨励賞をもって表彰するに相応しいと考える。
波 田 陽 一 郎	総合政策学部 4年	被推薦者は、大学一年生時から、英語以外の外国語としてマレー・インドネシア語を履修し、言葉だけではなく広くインドネシア地域の文化を真摯に学んできた。異なった文化に大いなる興味を持ち、世界で活躍する人材として、大きな潜在性を持った学生といえる。インドネシア語の運用能力は、上級レベルといえることができ(出場コンテストでは中級が最もレベルの高いカテゴリー)、加えて中央大学生として、品行方正かつ信頼すべき資質を有している。
田 畑 美 徳	国際情報学部 4年	ドキュメンタリー作品『あしたよなあー不時着した特攻隊員ー』は、特攻から80年という節目の年に制作されたものであり、複数の賞を受賞するなど、学外からも高い評価を受けた。また、同作品は、知覧基地があった鹿児島県の地元テレビ局・KKB鹿児島放送(テレビ朝日系列)の注目を集め、同ドキュメンタリー作品をベースにした特別番組(1時間)が制作された。東京ドキュメンタリー映画祭でも、新宿の映画館ケイズシネマで劇場上映され、田畑さんは登壇して監督として挨拶を行った。これらの成果は、学員会会長賞にふさわしいと判断し、ここに強く推薦する。
中央大学経済学部 江川章ゼミ 江川っ娘倶楽部 山田大地(他5名)	経済学部 3年	本研究は、男性優位社会が強く残る農村社会において、就農後の活躍が期待される女性の新規参入をいかに促進するかという観点から、女性に配慮した研修制度を分析したものである。現地調査によって、女性専用の研修体制の整備は、研修時の居住環境の改善のみならず、女性農業者に対する受け入れ地域の意識も変えたことを明らかにした。女性の就農促進のためには、女性に配慮した研修制度の効果が大きく、その仕組みが他地域にも応用できるという点で、学術的な面で貢献があることから本賞に推薦する。
道端のフラミンゴ 南里咲花(他5名)	商学部 3年	インター大会は、今年で70回目を迎える伝統ある学術的なプレゼン大会である。本年度の学生参加者数は350名(85チーム)であり、日本における経済経営系の大会としては最大規模である。また、アカウントティング・コンペティションは、84チームが参加する会計系のプレゼン大会としては最大規模の大会である。それぞれにおいて最優秀賞を受賞したグループは、約1年間に及ぶ研究活動の中で、日本的な管理会計システムであるアメーバ経営が、経済的な効率性の向上に貢献するだけではなく、組織成員の首尾一貫感覚という心理的概念にも促進的に作用し、メンタルヘルス対策上も有用であることを明らかにし、独創的な研究成果を得た。アメーバ経営を導入している企業から調査協力を得て、社員の皆様からデータを得て統計的な検証を行うとともに、その分析結果の妥当性を参与観察やヒアリング調査を経て確認する等、丁寧かつ多大な研究努力を傾注したことも高い評価を得た。
中村研究室 高橋哲大 (他3名:井上玲・永福裕汰・桐林泰生)	総合政策学部 3年	受賞論文「介護人材獲得に向けて」は、日本の介護労働市場での深刻な人材不足を解消するため分析・提言を行ったものである。介護労働実態調査の事業所調査と労働者調査の双方について丁寧な定量分析を行うことで、採用面、離職面双方から労働者の職業選択に作用する要因とは何かを明らかにしている。特に、従来注目されていなかった事業所の規模による要因の違いや、近年の処遇改善加算をどのような使途とすべきかについて明示しており、学術的貢献のみならず実務上の貢献もある。また、分析結果を踏まえて介護施設での定性的なインタビュー調査も行っており、確保に向けた施策提言に具体性も持たせている。本論文はその完成度から上記の通り論文優秀賞を獲得しており、中央大学の教育の質を社会へと示し、名声を高めることに貢献しているといえる。本賞候補者として強く推薦する。

AI・データサイエンス演習B 中村研究室 石田千尋（他5名）	総合政策学部 3年	研究代表者は石川県出身であり、令和6年能登半島地震の被災者である。受賞論文「被災後の生活再建に向けた支援に関する政策提言」は自身の経験を踏まえた背景を持っている。ただし、研究内容では全ての大規模災害を対象として「避難期間を短縮し、生活再建を早めるにはどのような行政支援の在り方が必要なのか」を問題意識として、自治体へ問い合わせを通じてデータ収集を行い独自のデータベースを構築し、高度な分析による避難期間長期化の原因を特定、それに基づく具体的な改善策を提示している。また、各避難所におけるアンケート調査も行っており、定量・定性双方からのアプローチも欠いていない。こうした研究活動は石川県の地元メディアでも複数取り上げられており、単なる学術の域を超え、社会活動としても中央大学の名声を高めることに貢献している。申請団体は本学AI・データサイエンス教育の成果そのものであり、本賞候補者として強く推薦する。
FLPメディア・ジャーナリズム プログラム 松野良一ゼミ 新見優果（他13名）	総合政策学部 4年	2024年は特攻出撃から80年目の年となり、戦争の時代を知る人もいよいよ少なくなった。そうした状況の中で、中央大学OBの特攻戦死者に焦点をあて、大学の後輩が先輩の記録と物語を掘り起こし、彼らの「生きた証」を残そうという活動が、NHK、「わだつみのこえ記念館」に注目された。NHKスペシャルという番組で取り上げられたこと、60年の歴史がある同記念館の講演会で学生が初めて講演したことは、中央大学の名声と評価を大いに高めることにつながった。以上の理由から、学員会会長賞に強く推薦するものである。
めりつと 佐川峻太郎 （他3名：中西渉・ 遠藤颯・山中媛乃）	国際情報学部 4年	国際情報学部の4名が制作した映像作品「八王子しりとりに」は、「八王子学生CMコンテスト」において「最優秀賞」、総務省関東総合通信局「関東デジタルコンテンツ・アワード2023」において「関東総合通信局長賞」を受賞した。学外の複数のコンテストにおいて入賞を果たしたことは評価できる。また、市ヶ谷田町キャンパスに通う国際情報学部の学生が、多摩キャンパスのある八王子市に関心を持ち、市内で撮影を行い、映像作品を制作、応募したことには意義があると考えられる。

【スポーツの分野】

吉居駿恭	法学部3年	(陸上競技部)	第101回東京箱根間往復大学駅伝競走 1区 区間賞
池本凧沙	法学部4年	(水泳部)	第100回日本学生選手権水泳競技大会 100m自由形優勝 200m自由形優勝 第33回オリンピック競技大会(2024/パリ) 女子4×100mリレー13位
日向楓	理工学部1年	(水泳部)	第17回パラリンピック競技大会(2024/パリ) 男子50m背泳ぎ(S5)7位
川端響喜	商学部1年	(ボクシング部)	第94回全日本ボクシング選手権大会 ミドル級優勝
中島鉄人	商学部4年	(ボクシング部)	第94回全日本ボクシング選手権大会 ライトヘビー級優勝
種市悠人	総合政策学部4年	(スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー男子 7位 第97回日本学生氷上競技選手権大会 アイスホッケー競技 最優秀選手賞
川合温大	文学部3年	(スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー男子 7位
高崎泰成	総合政策学部2年	(スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー男子 7位
堤虎太郎	総合政策学部4年	(スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー男子 7位 第9回アジア冬季競技大会 アイスホッケー男子 出場
角丸陸斗	国際経営学部3年	(スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー男子 7位
長岡真鈴	文学部4年	(スケート部)	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ) アイスホッケー女子 3位
馬場俊輔	法学部4年	(フェンシング部)	フェンシングワールドカップ(フランス/パリ) 男子フルーレ日本チーム 2位
中澤拓哉	経済学部3年	(スキー部)	第103回全日本スキー選手権大会コンバインド競技優勝 第98回全日本学生スキー選手権大会 ノルディックコンバインド10kmフリー 優勝
牧温人	法学部3年	(軟式野球部)	第47回全日本学生軟式野球選手権大会 最高殊勲選手賞 令和6年度東都学生軟式野球連盟春季リーグ戦 最高殊勲選手賞 令和6年度東都学生軟式野球連盟秋季リーグ戦 最高殊勲選手賞
軟式野球部			第47回全日本学生軟式野球選手権大会 優勝(2年連続5回目)四冠達成 令和6年度東都学生軟式野球連盟春季リーグ戦 優勝(3年ぶり8回目) 令和6年度東都学生軟式野球連盟秋季リーグ戦 優勝(2年ぶり11回目) 第45回東日本学生軟式野球選抜大会 優勝(2年ぶり5回目)
ハンドボール部			高松宮記念杯第67回令和6年度全日本学生ハンドボール選手権大会 優勝(4年連続7回目) 2024年度関東学生ハンドボール連盟秋季リーグ戦 優勝(3季ぶり19回目)
準硬式野球部			文部科学大臣杯 第76回全日本大学準硬式野球選手権大会 優勝(8年ぶり13回目) 令和6年度 東都大学準硬式野球春季リーグ戦 優勝(9季連続71回目) 第66回関東地区準硬式野球選手権大会 優勝(2年ぶり16回目)
スケート部			第97回日本学生氷上競技選手権大会 アイスホッケー競技 優勝(9年ぶり4回目)

第9回 学員会会長奨励賞

本賞は、在学生の士気の高揚を図り、本学の発展に寄与することを目的として、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて優秀な成果を収めた者に授与する学員会会長賞に準ずる者に授与するものです。

【学術・文化・社会の分野】

加藤 彩 夏	法学部 4年	加藤彩夏さんは、FLPジャーナリズムプログラム・石山ゼミのゼミ長として、3年間のゼミ活動で、常に中心的役割を担い、全体をリードしてきた。ジャーナリストに不可欠な、企画、取材、構成、編集、プレゼンテーションのどのスキルにおいても、常に研鑽を怠らず、誰よりも、時間をかけて、丁寧に技術力の向上を目指す姿勢が顕著であった。日頃のたゆまぬ努力の成果が、第41回NHK全国大学放送コンテスト（アナウンス部門）においても結実したと考える。以上の理由により、加藤彩花さんを会長奨励賞に推薦いたします。
高瀬 由 祐	法学部 3年	高瀬さんは漕艇部（ボート部）の副主将を務め、部をまとめけん引している。練習中におぼれている男性に気づき、救助した。日頃の訓練や水に関する知識に裏付けされた行動は注目また賞賛に値するため、本賞の受賞に相応しい候補者として推薦したい。なお蕨警察署長より「冷静、迅速、的確に行動していただいたことが救助に結び付いた。3人の連係した勇気ある行動により、尊い命を救うことができ、感謝申し上げます」と謝意をいただいていることを申し添える。
原 田 直 人	法学部 5年	原田さんは、居場所づくりや学校での授業で得た知見と、大学での政治学の学修（たとえば福祉国家論など）を通して得た知見を接続し、理論と現場の架橋に取り組んでいる。大学生という立場で学んだことや自身のアイデンティティ、生活経験などを通して得た知識を、中央大学の中だけでなく出身地の川崎市にも還元している。大学入学当初は主にケアを受ける側であったが、やがて提供する側の役割も担うようになり、参加者や各種の社会資源と緩やかな紐帯を構築している。以上の特筆すべき理由より、本賞の受賞に相応しい候補者として推薦したい。
藤 田 星 流	法学部 2年	藤田さんは大きく2つの活動分野を持っている。一つは能登地方での災害救援活動で、避難所支援、家屋の解体、高校部活動支援、高齢者福祉（福祉避難所）、交流などその活動内容は多岐にわたっている。もう一つは子どもの権利保障を軸に、社会的養護の子どもの意見表明支援、中高生の居場所づくり、主権者教育の実践などで、これについても活動内容は非常に多彩、行政審議会の委員や若者政策に関する政策提言などを行っている。いずれも対話や対等な関係を大切に、情熱をもち長期にわたり継続的かつ深く実践しており、その姿は注目に値するため、本賞の受賞に相応しい候補者として推薦したい。
伊 藤 ひ な り	理工学部 4年	候補者は、正課活動で優秀な成績を収めるだけでなく様々な課外活動も積極的に行なってきた。特に地方創生事業に関わっており、ふるさとワーキングホリデー事務局としては在学生の課外での経験・学習に大きく貢献していることから、学外においても同様に学生への機会提供の場をもたらしていると言える。ビジネスプランコンテストでは、専攻とは異なる教育分野でありながら結果を残したことは人間総合理工学科の目的の一つに書かれている分野を超えた課題解決力を活かした結果であると言えるであろう。以上のことから、候補者を会長奨励賞に推薦する。
金 子 優 菜	理工学部 4年	推薦する金子優菜さんは、対象科目GPAが学科でトップ、通算GPAでも学科で2位であり、学業面で大変優秀な結果を残している。現在、「あるレヴィ過程の統計的推測理論の構築」に関するテーマで卒業研究に取り組んでいる。このテーマの研究推進には、数理統計学、確率過程論の高度な知識を要するが、金子さんは精神的に研究に取り組み、既に新たな成果を出しつつある。さらに、その人物面も大変素晴らしく、常に穏やかで優しく他人に心配りのできる学生であり、多くの友人、先輩から信頼されている。以上のとおり金子さんは学力だけでなく人物面でも大変優れた学生であり、ここに強く推薦する。
小 出 真 也	理工学部 2年	小出真也君の「かわさきロボット競技大会」3位入賞は、技術レベルの高い社会人チームを抑えた学生チームとしての快挙であり、朝日新聞や大学のホームページ等に掲載され、その努力や成果が大きく評価された。これにより、精密機械工学研究部の活動が注目され、当部員にとって大きな励みとなり、今後のさらなる発展につながることを期待できる。したがって、会長奨励賞にふさわしい小出真也君を強く推薦する。
小 坂 充 輝	理工学部 4年	小坂充輝君は、入学初年度から一貫して勉学に励み、3学年後期までの合計GPAは3.57という高い成績を収めています。さらに、4年生時の卒業研究にも熱心に取り組み、新しい多層可視化技術の創出に成功しました。この研究成果により、学部4年生でありながら学会発表を行っており、同君の高い能力と日頃の努力のあらわれと考えられます。勉強、研究双方においてリーダーシップをとる立場になっているため、周囲からの信頼も厚く、今後もさらなる活躍が期待できます。以上から、同君を、中央大学学員会・会長奨励賞の候補者として推薦いたします。
河 村 拓 実	理工学部 4年	女性の人命にかかわる子宮体癌の罹患率が年々増加している社会状況下、診断支援AIの導入加速が期待される一方で、実際には子宮内膜細胞診の性質上、異常細胞集塊の自動判定は困難を極め、世界的に研究事例が希少な現状にあります。さらには、近年AIの代名詞となりつつある深層学習モデルは、判定根拠が不明瞭であることによる診断の正当性への問題さえ指摘されています。候補者は、世界最大の計算機系学会ACMの策定による教育課程を反映した情報工学科の教育課程を能動的に習得し、医療と医師の働き方を同時に解決するAIを開発するに至り、医師ら自身による展開を通じて近未来の医療変革を確信させるものであり、よって候補者を推薦する次第です。
坂 部 雅 弥	理工学部 4年	坂部雅弥さんは、2021年に中央大学理工学部都市環境学科に入学以来、勉学に励み、成績優秀者に授与される給付型奨学金を取得するなど、努力と成果が高く評価されています。また、研究活動に対して非常に熱心で、自発的な問題発見能力の高さが印象的です。学部4年生という早い段階で、第32回地球環境シンポジウムと水文・水資源学会2024年度研究発表会で研究発表し、後者では、スター賞を受賞しました。以上のことから、坂部雅弥さんは他の学生の模範であり、会長奨励賞の候補者として強く推薦します。
鈴 木 響 人	理工学部 4年	厳密な定義にもとづき抽象的で複雑な概念を理解するなど高い数学能力を身につけており、卒業研究では偏微分方程式論について深い学問レベルまで理解している。また、数学を学んでいく中で見つけた疑問について、自ら問い直し文献検索等によりそれを解明する方法を習得している。さらに、友人達とともに議論を交わしながらより数学的な理解を深めており、他の学生に対してアドバイスをするなど周りにも良い影響を与えている。以上の理由により、学員会会長奨励賞にふさわしいと考え推薦する。

藤田翔伍	理工学部 4年	藤田さんは、物理学科内でトップクラスの成績を収めるだけでなく、学外活動でも優れた成果を挙げています。特に量子力学、そして量子コンピュータの実験的研究に強い情熱を持ち、その分野に関する専門書を自主勉強会で他の学生とともに学ぶなど、深い理解と探求を続けてきました。また、他研究機関での実験活動にも積極的に取り組み、現場での研究経験を通じて実践的なスキルを磨いています。これらの取り組みを通じて、藤田さんは量子コンピュータ研究の発展に寄与する可能性を切り開いています。その学問への強い探究心、主体性、そして積極的な姿勢は、学員会会長奨励賞にふさわしい資質であり、ここに藤田さんを推薦いたします。
山滝風砂	理工学部 4年	山滝風砂さんは入学時から、理工学部応用化学科において常に高いGPA値を維持し続け、現在に至っています。現在卒業研究において、自己発熱型CO2吸収コンポジット用CO2吸収材料としては、まだ使用された事がない新しい酸化物であるLi4TiO4を選択し、本酸化物をチタン(Ti)板の表面上に形成させる技術の研究・開発に勤しんでいます。学業成績も極めて高いですが、他人に対して優しい性格で、優れた協調性も持った人物でもあります。以上から、山滝風砂さんを学員会会長奨励賞に強く推薦致します。
澤島延之	国際情報学部 3年	当該学生は、入学当初から学修・研究活動を精力的に進めてきた。このたび、当該学生は本年度に実施された「応用情報技術者試験」に合格した。「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」(実施団体：情報処理推進機構WEBサイト抜粋)と位置付けられる「応用情報技術者試験」に3年次で合格を果たしたことは大いに評価できる。そしてその強みを生かし、就職活動においては、早期にコンサルティング企業からの内定を得ている。今後のゼミ活動等を通じて、本学部での更なる活躍が期待されることから、本奨励賞に推薦する。
進藤美優	国際情報学部 4年	当該学生は、入学当初から、正課内外での学修・研究活動を精力的に進めてきた。このたび、当該学生は本年度に実施された「応用情報技術者試験」に合格した。「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」(実施団体：情報処理推進機構WEBサイト抜粋)と位置付けられる「応用情報技術者試験」に合格を果たしたことは評価できる。さらに、当該学生は本学教職課程で実施されている「学校応援プロジェクト」にも参画してきており、活動の範囲は広範にわたってきた。本学卒業後は、コンサルティング会社への就職を決めており、本学部を代表する卒業生のひとりとしての活躍が期待されることから、本奨励賞に推薦する。
土田裕太	国際情報学部 3年	当該学生は、入学当初から学修・研究活動を精力的に進めており、特に学業成績は非常に優秀である。このたび、当該学生は本年度に実施された「応用情報技術者試験」に合格した。「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」(実施団体：情報処理推進機構WEBサイト抜粋)と位置付けられる「応用情報技術者試験」に3年次で合格を果たしたことは大いに評価できる。今後は、さらに上位の資格試験への挑戦等を通じて、本学部での更なる活躍が期待されることから、本奨励賞に推薦する。
馬場一輝	国際情報学部 4年	当該学生は、入学当初から学修・研究活動を精力的に進めてきた。このたび、当該学生は本年度に実施された「応用情報技術者試験」に合格した。「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」(実施団体：情報処理推進機構WEBサイト抜粋)と位置付けられる「応用情報技術者試験」に合格を果たしたことは評価できる。さらに、当該学生はゼミの指導教員の指導のもと、学会での発表を複数回経験しており、キャンパス外での活動も積極的に行っていることが認められる。本学卒業後は、民間企業への就職を決めており、本学部を代表する卒業生のひとりとしての活躍が期待されることから、本奨励賞に推薦する。
宮本卓門	国際情報学部 2年	当該学生は、入学当初から、正課内外での学修・研究活動を精力的に進めてきており、特に学業成績は非常に優秀である。このたび、当該学生は本年度に実施された「応用情報技術者試験」に合格した。「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」(実施団体：情報処理推進機構WEBサイト抜粋)と位置付けられる「応用情報技術者試験」に2年次で合格を果たしたことは高く評価できる。さらに、2025年度には海外留学も予定しており、本学部を牽引する学生のひとりとしての活躍が期待されることから、本奨励賞に推薦する。
四方ゼミ 防犯スタンプラリー班 佐藤杏・大木 愛美・田仲桃子	法学部 3年	学生が様々な形態の地域のステークホルダーへ協力を仰ぎ、多くの協力者のもと本活動を行った。近隣町会(自治会)や小学校・小学校PTAへの協力依頼は今回が初めてであるが、教員の紹介によらず学生が直接交渉し、協力を取り付けた。昨年の初回を質的にも規模的にも大幅に充実した企画となったのは、地域を巻き込み互いの交流も念頭に置いた企画設計力によるものであり、注目に値する。以上のことより、本賞の受賞に相応しい候補チームとして推薦する。
東京少年友の会 学生ボランティア中央大学支部 赤羽杜文(他14名)	法学部 3年	裁判所と連携し、試験観察期間の少年を支援しており、少年のプライバシー保護の観点から、活動を外部に公表することは少ない、全国でも他に例がない活動である。少年と1対1で行う活動、長期間に渡って継続的に行う活動など、種類や期間を問わず緻密な支援を行っている。学生主体での研修会を毎月行い、家庭裁判所調査官や弁護士の方を講師にお呼びするなど、様々な観点から非行少年や少年法への理解を深めている。以上のことより、本賞の受賞に相応しい候補団体として推薦する。
FLP 地域・公共マネジメントプログラム 山崎朗ゼミC生 山中沙紀(他2名)	法学部 4年	山中沙紀、安達美玖、井上優花の3名は、沖縄県の石垣島の農業についての現地調査を実施、そのヒアリング結果をもとに、第12回クミアイ化学工業株式会社の懸賞論文に応募し、特別賞を受賞した。離島という難しい地理的条件下にある農業における農作物栽培の多様化と生活水準の引き上げおよび観光への波及効果についての提言は、斬新であり、学員会会長奨励賞に値すると考える。

経済学部 佐々木ゼミ フー ド ロ ス 班 石井 涼音（他2名）	経済学部 3年	環境経済学を専門とするゼミによる第12回環境経済・政策インターゼミナール大会が2024年12月21日（土）に中央大学で開催された。今年の参加校は、立教大学、成蹊大学、大阪経済大学、中央大学から合計10チームの研究報告があり、当該研究が最優秀賞を2年連続で受賞した。同大会は日本政策学生会議（ISFJ）入賞常連校も参加しており、最優秀賞の受賞は立教大学などの同規模大学と比較し本学部のGFSの教育効果や学生の研究レベルの高さの証左であり、学内のゼミ活動の活性化に繋がり、経済学部の広報効果としても高く評価できるため、中央大学学員会会長奨励賞に推薦する。
和田光平ゼミナール 大 上 班 大上 勇一郎（他4名）	経済学部 4年	2023年りそな×EXP02025 SDGsアイデアコンテストは、りそな銀行が、2025年開催の「大阪・関西万博」と協働し、万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現させ、SDGsに関する考え方を広く浸透させることを目的としています。全78チームの中から当該学生チームを含む7チームのみが選ばれ、りそな銀行大阪本社で、りそな銀行代表取締役社長らの前で最終プレゼンしました。当該チームは、上位入賞こそ逃したものの、衣服ロスという課題に対し「加工」ではなく「コーディネート」という切り口からアップサイクルに挑戦をする斬新さと、それに伴う事業構想の論理展開、実現可能性の高さが評価されました。
和田光平ゼミナール 山 形 班 山形 凌（他4名）	経済学部 3年	第15回OGIS-RI Software Challenge Award「ひっくりかえるソフトウェアコンテスト」は若い学生たちの活躍の場、自分たちの発想力・想像力をシステム化のアイデアとしてアピールできる場であり、そのコンテストを機にITの可能性を知ってIT業界で活躍することが目的とされています。当該学生を含むチームが参加した本選は、一般部門に応募約140チームの中から選ばれた5チームのみがオーグス総研とゲスト審査員の前で発表できるものです。当該チームは「ひっくりかえる」という大会コンセプトに対して就職活動のあり方に着目し、SNSというソフトウェアと近年市場が拡大しているダイレクトリクルーティングサービスを融合した提案を実装したデモを作り、実現可能性を示したことが審査員に高く評価されました。
T a k e P O P 8 % 須田 雄也（他4名）	商学部 3年	インター大会は、今年で70回目を迎える伝統ある学術的なプレゼン大会である。本年度の学生参加者数は350名（85チーム）であり、日本における経済経営系の大会としては最大規模である。そこにおいて最優秀賞を受賞したグループは、約1年間に及ぶ研究活動を経て、以下のような独創的な研究成果を得た。Jリーグの多くのクラブは、スタジアム観戦回数が1,2回以下のライト層を、いかに3回目の観戦に導くかを課題として認識している。3回目の観戦をした人は、その後、継続してスタジアムで観戦をする傾向にあるが、そこに到達する前に、つまりライト層の段階で多くが離脱してしまうからである。本研究では、その点を問題意識として、ライト層の3回目以降の観戦を促すメカニズムを解明することを目的として行われた。そして、試合内容に加えて、スタジアムでのエンターテイメント、ホスピタリティ、応援、および施設の外観などを独自に概念化して、それらについてライト層の意外性の認知を促進し、感動体験を喚起することで、ライト層の再観戦意図を高めることを明らかにした。そのうえで、意外性の認知を促進するためのオリジナリティの高い施策を提案して、高い評価を得た。さらに付言すると、一定規模のサンプルサイズを確保するために、複数のスタジアムに実際に足を運び、5000枚に及ぶ質問票を配布するなどの研究努力も、高い評価を得た要素の一つである。
ボランティアセンター公認 学生団体面瀬学習支援 福嶋 陸（他31名）	文学部 2年	2011年の東日本大震災後に多くの団体が活動を収束する中、12年間の長きに渡り、先輩から後輩へのバトンを繋ぎ活動を継続しており、彼らの活動は、気仙沼面瀬地区の地域や子どもたちにとって、一年を通じて楽しみなイベントの一つとなっている。気仙沼市においては、現地の新聞で何度も掲載され、地域のイベントに招待してもらったりと、地域からの信頼は大変厚い。大学のない気仙沼で活動することにより、中央大学の知名度やブランド力の向上に大きく寄与している。以上のことより、面瀬学習支援を推薦する。
中村研究室 AI・ データサイエンス演習A 富田 佑奈（他4名）	総合政策学部 2年	申請団体は「シニア・オープンデー -シニアの学び直し推進-」というタイトルで発表を行い、シニア世代の生涯学習を促進するための具体的なアイデアの提案を詳細なデータ分析に基づいて行い、それを評価されての受賞となる。データサイエンス・アイデアコンテスト2024の最終選考に残った唯一の2年生でありながら協賛企業から非常に高い評価を得たことは、本学の推進するAI・データサイエンス教育の質の高さを証明するものであり、本学の名声を高めるものと言える。中央大学における同教育を奨励する目的から、本奨励賞の候補団体として強く推薦する。

第26回 法曹会賞

本賞は、中央大学法曹会が学部在学中に司法試験に合格した者に授与するものです。

有 賀 沙 綾	法学部 4年	在学4年次に司法試験合格
下 村 宏 太 朗	法学部 4年	在学4年次に司法試験合格
高 橋 和	法学部 4年	在学4年次に司法試験合格

第39回 南甲倶楽部賞

本賞は学員会南甲倶楽部が、毎年卒業する学生のうち、学力優秀にて学問研究、文化活動、体育活動及び社会活動などの分野において顕著な成果を挙げ、本学の名声を高めると共に本学の発展に寄与した者を対象に授与するものです。（南甲倶楽部は実業界で活躍するOBが組織する団体）

松 平 聡 子	法学部 4年	法学部卒業生の中で、在学中の学業成績が優秀でありかつ所属ゼミでの活躍も顕著で、指導教員からの信頼も厚い。
CHEN Qianhui	経済学部 4年	2～4年次に学長・学部長賞奨学金制度における学部長賞奨励学生に3年連続して採用されており、学業成績が極めて優秀である。また、ゼミ活動においても積極的に活動しており、「女性の移住に関する日中比較」に関する卒業論文を書き上げ、指導教員より当該ゼミの中で最優秀論文として評価された。学業に取り組むその姿勢は、学生の模範となるに相応しく、南甲倶楽部賞受賞候補者として適格であると判断し、ここに推薦する。

田 中 雅	商学部 4年	本年度商学部卒業生の中で学業成績が優秀であり、難関とされる公認会計士試験に在学中に見事合格した。 以上の理由により、南甲倶楽部賞候補者として推薦する。
金 澤 素 大	理工学部 4年	金澤素大さんは、これまで中央大学理工学部学部長賞を受賞するなど、勤勉で優秀な学生です。卒業研究では素粒子理論の基礎となる場の量子論に関するゼミに参加し、緻密な式変形を用いて丁寧に場の量子論の内容を解説するとともに、積極的に質問を行うことでゼミ全体を牽引しています。また自ら相対性理論に関する自主ゼミを立ち上げ、勉学に勤しんでいます。大学における卒業研究や講義以外の活動においても、物理学研究部において音響学やMRIによる画像撮影の原理に関する解説記事を作成したり、応用物理学会のティーチング・アシスタントとして子供たちにプログラミングを教える活動を行うなど、積極的な活動を行っています。卒業後は中央大学大学院理工学研究科物理学専攻の修士課程に進学予定であり、さらなる活躍が期待されます。これらの理由により金澤素大さんを南甲倶楽部賞に推薦いたします。
大 谷 知 夏	文学部 4年	大谷知夏さんは、成績が優秀であることはもちろん、推薦者の授業（中古文学A・B）においても、非常に模範的な受講態度を示しました。また講義内容や課題に関する疑問があれば積極的に質問し、常に能動的な姿勢を持ち続ける学生でした。 ゼミナールは、上代文学ゼミ（指導教員：小野泰央）に所属し、卒業論文では、日本神話の世界をモチーフとした『火の鳥 黎明編』を研究対象とし、「手塚治虫『火の鳥 黎明編』-漫画少年版からCOM版への改変について」として研究を行いました。本論文では、まず漫画少年版の物語構造を指摘した上で、後に続編として制作されたCOM版との違いを登場人物の設定やストーリー展開の視点から分析しています。その上で、両者に違いが生じた原因を制作当時の社会状況の変化にあると結論づけています。これらの考察は、実に詳細で、かつ古代から現代にいたる幅広い視点からなされています。結論に関しても妥当性が認められ、きわめてレベルの高い卒業論文であると考えます。 このような研究を行うことができたのは、大谷さんが入学当初から積極的に学び、多様な考え方を柔軟に受け入れ、それらを自らの思考の中で深く咀嚼する力を培ったからに別なりません。そして、その能力は社会人となってからも、必要不可欠で有用な力であると確信いたします。 よって、ここに責任を持って、大谷知夏さんを南甲倶楽部賞に推薦させていただきます。
明 石 こ と み	総合政策学部 4年	明石ことみさんは総合政策学部の中でも卓越して優秀な成績を収め、GPAは在籍する政策科学科においてトップである。ゼミ活動にも積極的に取り組み、卒業論文では企業の休暇制度が離職率に及ぼす影響を分析しました。分析の結果、土日が休みの企業と比べて平日が休日の企業では離職率が高いこと、有給休暇の日数や取得率などが離職率に及ぼす影響が強いことを発見しました。この研究は先行研究にないユニークな視点からの分析と評価でき、実務的インプリケーションにも優れた示唆をもたらしています。以上の理由から、明石さんを南甲倶楽部賞受賞の候補者として推薦します。
佐 久 間 駿	国際経営学部 4年	推薦学生は、イギリスへの長期留学を始めとして意欲的に勉学に励み、優秀な学業成績を修めた。所属ゼミでの活躍も顕著で、指導教員及びゼミ生からの信頼も厚く、学部で開催した卒業論文発表会では、ゼミを代表して自身が執筆した卒業論文の発表を英語で行い、後輩たちにも大きな影響を与えた。
名 取 真 生	国際情報学部 4年	名取 真生さんは国際情報学部カリキュラムにおいて優秀な成績を収めました。特に国際情報演習、卒業制作において単に情報システムを構築するだけでなく、現実の問題や政府の政策を考慮したシステムを高い水準で実装し、国内研究会での口頭発表をしました。また、企業と直接交渉をし、得られた情報をシステムに組込む等のコミュニケーション能力の高さを有しています。 上記理由から、情報化社会に貢献しうる優秀な人物として推薦します。

第20回 東京白門ライオンズクラブ学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、有為な人材の育成に資することを目的として、博士課程前期課程・修士課程に在学する外国人留学生のうち、優秀な成績をもって課程を修了し、かつわが国と出身国を結ぶ架け橋として活躍が囑望される者に授与するものです。

陳 墨 軒	国際情報研究科 修士課程 国際情報専攻	陳さんが執筆した修士論文「キャセイパシフィック航空CA発言を巡る炎上事件—テキストマイニングを使った構造分析—」は、キャセイ航空機内で、中国本土の客が「ブランケット」というべきところを「カーペット」と言ってしまったことを、CA3人がキャビンで笑いにした事実が、音声までネット上にアップされて大炎上に発展した事件をテーマにしています。 陳さんは、現象面に注目するだけでなく、テキストマイニング分析によって、水面下にあった、香港と中国本土間の緊張・摩擦、優越感と劣等感、さらにはキャセイ航空と雨傘運動の関係など、炎上事件の背景を可視化させることに成功しました。 同炎上事件に関するテキストマイニング分析、複数メディアの比較研究は初めての試みであり、学術的にも極めて高い独自性と価値を有しており、貴奨励賞に強く推薦いたします。
-------	---------------------------	--

第11回 東京白門ライオンズクラブ法務研究科学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、将来法曹として活躍が期待される人材の育成に資することを目的として、社会実務等の経験を有して法務研究科に入学し、在学中の業績が顕著と認められた学生に授与するものです。

大 川 拓 也	法務研究科 専門職学位課程 法務専攻	学部3年＋法科大学院2年の短期養成が主流となりつつあり、単に学力試験が得意というだけで法曹を目指す「優秀」者も目立つ中、候補者は、明確な弁護士業務像を胸に真摯に研鑽を重ねる、有為の人材である。 職業体験から得たコンサルティングのアイディアと自己の適性を掛け合わせて事業を創造する「開拓精神」に富んでおり、特に工学系出身で再生可能エネルギーの原理と実情に詳しいという強みは、環境法を専門とする推薦者の知見に照らしても大いに展開可能性を秘めている。国のGX推進戦略の追い風も得て、環境企業コンサル面での弁護士業務拡大に寄与する等、将来世代を破滅から救う活動で貢献しうる者と思われ、貴会に推進する次第である。
---------	--------------------------	--